

岩泉町・昭島市連携交流事業報告書

一日目の10月7日(土)は、早坂高原でもみじの植樹を行った後、高原を散策した。また、古風なうれいら商店街をゆったりと散策し商人などの話を伺いながら町並を見学した。

二日目の10月8日(日)の午前は、龍泉洞を見学し、その神秘さに感動し、デジカメで写真を撮り続けた。

見学後、台風10号による被害の跡は、まったく感じられなかったが、水の勢いで洞窟の中はどうだったのかと想った。

午後は、小本地区と安家地区の被災地を視察した。昨年の8月、台風10号の影響から降り続いた大雨は、土砂崩れや河川の氾濫を招き、道路を寸断し家屋や田畑が浸水、流失の大災害となった。

被災状況の一端の記録によると、岩手県は、岩泉、大槌等の県内8市町村で9月1日には最大約1,600人が孤立したと推計された。

岩泉町ではピーク時の9月2日に最大33

地区 4 2 8 世帯 8 7 3 人が孤立した。ライフラインはもとより、家屋被害が甚大で岩泉町だけでも全壊半壊等の家屋は 1 , 9 0 5 棟になった。

瓦礫や泥、流木等は、すっかり片付けられていたが、清水川の水際に点在する民家には住む人が見当たらず、がらんどうとなっており痛ましかった。

楽天イーグルス岩泉球場内は、未だに泥などで被われており無残な光景に胸が痛んだ。

台風による豪雨被害は、とても他人事とは思えず、学ぶことが多かった。

夕刻からは、宿泊先で岩泉町・昭島市連携交流会が開催され、伊達岩泉町長等のご挨拶の後、名刺交換を初め意見交換等を行い有意義な時を過ごした。